

ハーモニー だより

・第92号・

令和3年11月1日発行



医療法人 明医研



WARM&RELIABLE

緑 区 ハーモニークリニック
れんけい訪問看護ステーション
明(めい)サポートヘルパーステーション

南 区 デュエット内科クリニック
ケアメイト訪問看護ステーション
中央区 アトリオ訪問看護ステーション



理事長あいさつ

『皆さんと共に待っていた季節が』

ようやく到来』



医療法人 明医研
理事長 中根 晴 幸

猛暑の夏が遠く過ぎ去り、新型コロナウイルス感染症対策が徐々に功を奏して、落ち着いた空気が街の中に少しずつ戻ってきているようです。

昨年8月、ハーモニッククリニックの院長交代をしてから、中井院長はじめ若い先生方がチームを組んでしっかりした診療をやってくれていて、とても安心しています。

1995年8月の明医研開設以来、「温かくて頼りになる明医研」を旗印にどんときにも、人の心を受け止め、患者さんのため、地域のため、仲間のために最善の方策を考えて、職員とともに仕事をしてきました。新型コロナウイルス感染拡大によって、日常としてできていたことが様々に制限されて、人々との心の交流も少なくなっていましたように感じます。

明医研と皆さんとの温かな交流を取り戻すために、しばらくお休みしていたハーモニーだよりを新しい企画・新しい紙面で再び発行いたします。

部署紹介コーナー

VOL.01

ハーモニッククリニック 検査科



主任 末岡 麻子
小林 恵子
小田 由記
左から 福田 福

今回は、臨床検査技師が3名在籍している検査科を紹介いたします。検査業務について答えて頂きました。

Q1 検査が必要な理由とは？

A. 症状から疑われる疾患の鑑別や診断の補助に役立てるためです。

臨床検査技師は、医師の指示を受け、生理機能検査や検体検査を行います。一例ですが、胸が苦しい、動悸がするなどの胸部症状がある時には心電図検査を、排尿痛や頻尿などの症状がある時には尿検査を医師が検査科に指示をします。定期的な血液検査から、医師が患者さんご自身でも自覚のない症状に気付く場合もあります。

ご心配な症状やお困りのことがございましたら、担当医師にご相談ください。

Q2 確実な検査を実施するためには？

A. 関係各部署間の連携が重要になってきます。

まず、医事科が、どんな症状で来院されたか伺います。その情報をもとに医療秘書科がスムーズに診察を行なえるよう医師と患者さんとの橋渡しをします。その後、医師が実際に患者さんを診察し、必要な検査

の指示を出します。

特に、レントゲンや採血、生理機能検査など複数の部署が関わる場合、看護科や放射線科とも密に連絡を取りながら検査を実施し、速やかに医師等に報告することで、できるだけ患者さんをお待たせしないようにしています。

Q3 検査時に気を付けていることは？

A. 事前にどのような検査なのかを丁寧にご説明し、患者さんに安心して検査を受けていただけるよう気を付けています。

検査依頼を受けると、まず各部署で共有されている電子カルテから症状や依頼目的を確認します。患者さんにとって馴染みのない検査と思われる場合、どのようなことを調べる検査なのかをわかりやすくお伝えするよう心がけています。また、検査によつては、患者さんに事前準備のご協力をいただくこともあります。検査に関してご不安な点やご質問がありましたら、検査科スタッフにお声がけ下さい。

Q4 コロナ禍での感染症対策は？

A. 機材や設備の消毒と手指衛生を徹底することに加え、感染防御をしたPCR検体の取り扱いを行っています。

患者さんご本人のみならず、来院中の他の患者さんやスタッフの安全性を高められるよう、接点となる機材や備品の衛生対策や、感染防御備品の装備、手洗い・消毒を欠かさずに行っています。

(聞き手… 法人本部 横田)

なるほど!

健康講座

肺炎予防



医療法人 明医研
総合内科・消化器内科
特任医師
木村 淑子

肺炎と風邪はまったく異なる病気で、肺炎は肺の中に原因微生物が感染して炎症を起こすもので、我が国の死亡原因の第5位となっています。また、日常的に生じる成人の肺炎のうち、1/3、1/4は肺炎球菌が原因と考えられています。

特に、高齢者の肺炎は命に係わる病気です。元気がない、食欲がない、寝てばかりで動かない、意識がはっきりしないなど、気が付かないうちに重症化していることがあります。肺炎で亡くなる方の約98%は65歳以上の高齢者です。

年齢を重ねると飲み込む力などの体の機能や免疫力が衰えるため、肺炎のリスクが増加します。また、喫煙歴や、喘息・心臓病・糖尿病などといった持病のある方は要注意です。

ではどうしたら予防できるのでしょうか。大切なのは、肺炎の原因となる細菌やウイルスがからだに入り込まないようにすることです。

① 感染予防

(うがい、手洗い、マスクの着用、歯磨

きなどの口腔ケアで清潔にすること、
誤嚥予防)

2019年の肺炎の死亡人数は9万5千人あまり、2020年は7万8千人あまり。昨年は、コロナ対策によるマスク着用や手洗い、手指消毒のため感染症が流行しなかったため、肺炎の死亡人数も大幅な減少がみられました。毎日の感染予防の大切さを教えてくれます。

高齢になるにつれ、飲み込む運動がうまくいけなくなり、唾液や食物が誤って気管に入ってしまうことを誤嚥(ごえん)といいます。口の中の清潔が保たれていないと、寝ている間でも唾液とともに口の中の細菌も一緒に気管の中に流れ込んで誤嚥性肺炎を引き起こすことがあります。

② 予防接種

(成人用肺炎球菌ワクチン・インフルエンザワクチン・コロナワクチン)

高齢者を対象に肺炎球菌ワクチンの定期接種が実施されています(定期接種の対象者は毎年度異なります)。肺炎球菌は、主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを通じて飛沫感染し、気管支や肺炎、敗血症など重い合併症を引き起こすことがあります。肺炎球菌には90種類以上あり、そのうち23種類を予防の対象としたものが23価肺炎球菌ワクチン

(ニューモバックス)です。すべての肺炎を予防できるわけではありませんが、この23種類の血清型は、成人の肺炎の6/7割を占めるという研究結果があります。

インフルエンザワクチンも、インフルエンザをきっかけに肺炎にかかる人も多いことから、肺炎予防には大切です。

③ 免疫力を高める

・バランスのよい食事や、よい睡眠をきちんととるなど規則正しい生活をしましょう。

・喫煙は気管や肺を傷め、免疫力を低下させるので控えましょう。

・持病の治療のある方は、その治療をしっかりしましょう。

・強いストレスは自律神経の働きをかき乱し、免疫力を低下させますので、ストレスをためないようにしましょう。

・体温が下がると免疫力が下がると言われていますので、入浴で体を温めましょう。



未曾有の敵との闘い ～新型コロナウイルスとハーモニークリニック～

新型コロナウイルスの蔓延という未曾有の災禍の中、みなさん、本当にご苦労が多いことでしょう。

当法人では、ハーモニークリニックとデュエット内科クリニックを中心に「新型コロナウイルス外来対策チーム」を立ち上げ、感染防止を合言葉に、皆様に安心して受診して頂くための様々な取り組みを行って参りました。

今回は、ハーモニークリニックの取り組みをご紹介します。

当チームは、高橋毅医師をリーダーに、看護師、事務職など多職種のメンバー8名がそれぞれの異なる視点から問題点を洗い出し、協議を重ねていきました。

その結果、延べ23回に上る会議で得た解決方法を逐次導入し、その後も工夫や改善を重ねることで、患者さんが安心して受診できる態勢を整えることができました。

一例として、院内の換気や共有部分のこまめな消毒はもちろんのこと、雑誌類の撤去、心電図検査における使い捨て備品の導入、消毒可能な備品への変更、待合室や診療室のレイアウト変更、パーティション等によって専用区域に設けた「風邪・発熱外来」などが挙げられます。今回は、特に大きな成果を上げることができた「風邪・発熱外来」の受診方法を紹介させていただきます。

万が一の場合にぜひお役立てください。

風邪・発熱外来《予約制》の受診方法

注*予約なしでのご来院や正面入口のご使用はご遠慮願います。

ハーモニークリニック
を受診される方

デュエット内科
クリニック
を受診される方

STEP 1

来院前に当院にお電話をください。

電話で担当者が症状を聞き取りし、予約時間をお伝えします。

STEP 2

予約時間通りに来院してください。

STEP 3

当院に到着後、再度お電話をください。スタッフが専用待合スペース（テナ）にご案内します。

STEP 3

当院に到着後、正面インターフォンを押してください。スタッフが対応しますので、そのままお待ちください。

STEP 4

お呼び出し後、専用出入口からお入りください。

STEP 4

専用出入口から入り、風邪患者待機場所にて待機して頂きます。

STEP 5

専用診察室で診察を行います。お会計、処方せんのお渡しまで専用区域内で行います。

STEP 5

専用診察室で診察を行います。お会計、処方せんのお渡しは、風邪患者待機場所で行います。

STEP 6

お会計後は気を付けてお帰りください。



新型コロナウイルス
外来対策チーム
リーダー
ハーモニークリニック
医師 高橋 毅

昨年春からの新型コロナウイルス流行は、ハーモニークリニックの診察室にも大きな影響を及ぼしました。

内科クリニックで最も一般的な受診理由の一つである感冒症状の診察を通常通り行うことができなくなることとは、これまで全く予想もできないことでした。上述の通り、ハーモニークリニックでは、内部に新型コロナウイルス外来対策チームを

立ち上げ、議論を重ねて参りました。日々明らかになる新型コロナウイルスの特性を元に、スタッフはもとより待合にいる他の患者さんにも感染リスクを広げないために、この1年半で複数回の診療所内レイアウト変更を行いました。特に当初は不十分な点も多く、患者さんにもご迷惑をおかけしたと思いますが、その都度チームメンバーで議論し、現在の発熱外来の仕組みとなっております。ワクチン接種も進んできております。感染の流行もいつか必ず終息に向かうと信じて、今は日々の感染対策を怠らずに行って参りましょう。

ふれあいホームページ

『押し花とフラメンコと私』

黒谷 佳子さん

デュエット内科クリニックには亡き元院長の福本先生の頃からお世話になっております。私の作品冊子をご覧になった福本先生からは、その中の「線香花火」の実物の作品を見たいと言われておりました。「今度お持ちします」と答えた私は、その後、黄色靱帯骨化症で手術入院してしまいました。お見せできなかったことは、心残りではありません。

現在、デュエット内科クリニックの玄関と待合室に私の作品を展示させて頂いております。展示品は、不定期に変えておりますが、どれも「心を元気に」と言う気持ちで作った作品です。この他、エイズや幼児虐待防止チャリティー展への参加や介護施設でのイベントの開催もやっています。微力ながら押し花の楽しさを広めております。興味のある方は、是非お声がけ下さい。

一方で私は、62歳の時、憧れのフラメンコ教室に入りました。初めは難しく、やはり年が年だからと、無理と決めつけすぐにやめました。諦め切れなかった気持ちが後押しをし、74歳で現在の舞踊団に入ります。

した。コロナ禍なので今はオンラインですが、通常は、八王子まで通ってレッスンをしています。背中が猫背ですが、踊っている時は背筋が伸びます。舞台発表会にも出ていますが、終わると沢山のお客様から「元気を貰って帰ります」との声をいただきます。その言葉がまた私を元気にしてくれます。

そんな私も昨夏、アキレス腱断裂をしてしまいました。直後は、歩くのも困難でしたし、80歳という年齢ですが、また舞台へ立つ事を目標にリハビリを頑張り、今はまたレッスンを始めています。

押し花もフラメンコも人々を元気にする力を持っています。静と動、私にとって生涯の友でも有り、車の両輪のように私を支えてくれる原動力でもあります。体の続く限り今後も頑張ります。



表紙写真紹介

- ① 中根晴幸理事長外来診察最終日記念
- ② デュエット内科クリニックスタッフ
(事務長 庶務総務・医事科)
- ③ ハーモニークリニック検査科スタッフ
- ④ アトリオ訪問看護ステーションスタッフ

明医研インフォメーション

勤続10年職員表彰

ハーモニークリニック

院長 中井 秀一
看護科師長 岡田 理恵
医療秘書科 中島 真奈美
訪問看護師 田杭 典子

デュエット内科クリニック

庶務総務 小林 誠

ケアメイト訪問看護ステーション

主任 訪問看護師 宮澤 佳代子
訪問看護師 武井 優佳

編集後記

皆さま、大変長らくお待たせいたしました。新型コロナウイルス対応に追われ、8ヶ月間のお休みを頂いておりますが、再び発行できる安堵と喜びを感じています。

新たなスタートにあたり、これまで皆さまよりご好評頂いております内容に加え、明医研の特徴である多職種チームの活動報告やスタッフ紹介なども織り交ぜながら、皆さまに楽しんでいただける広報誌にすべく、一層紙面を充実させていきたいと考えております。引き続きご愛読頂きますようお願い申し上げます。

(法人本部 横田)

—— 発行 ——
医療法人 明 医 研
さいたま市緑区松木3-16-6
TEL 048-875-7884
FAX 048-875-7885